

腎臓内科

● スタッフ（平成28年10月1日現在）

診療科長 菅野 義彦
 医局長 和田 憲和
 病棟医長 宮岡 良卓
 外来医長 権藤 麻子

医師数 常勤 15名
 非常勤 1名

● 診療科の特色・診療対象疾患

腎疾患は末期まで自覚症状に乏しく、健康診断で検尿に異常があっても専門医を受診する患者は少ない。そのため専門医の対応が手遅れとなり腎不全となる患者が多く、人工透析を必要としている患者は全国で32万人となった。ここ10年間における腎疾患の診療レベルは向上し、慢性腎臓病（CKD）を管理する地域ネットワークも機能しつつある。加齢とともに腎機能が低下することも次第に認知されてきたため、健康診断での異常値、かかりつけ医における検査異常を早期から対象疾患として、二人主治医で管理する方針を立てるのが腎臓内科の役割である。また他の疾患の治療で受診した患者の腎機能を評価し、腎機能保護を図る支援を行う。

特徴・特殊性

腎疾患そのものが生活習慣病であるが、高血圧、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症、肥満などほかの生活習慣病によっても腎機能は低下する。そのため外来担当医は腎臓病だけでなく生活習慣病一般についても一元的に管理可能であり、診療科として他領域の専門医取得を推奨している。

● 診療体制と実績

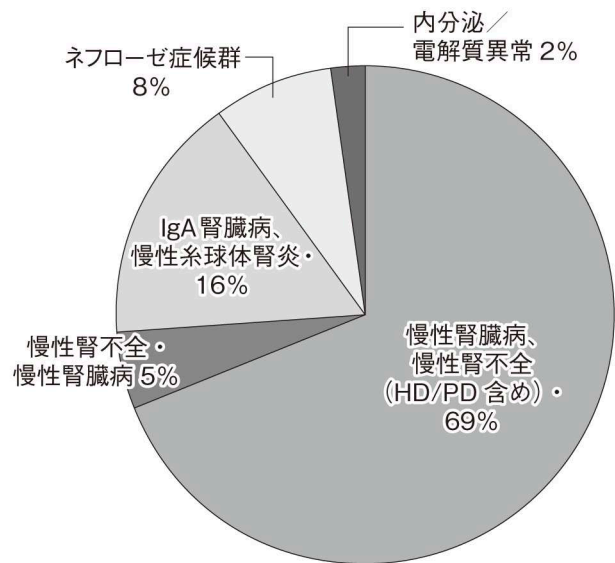
1) 外来診療体制と実績

外来は資格を有する腎臓専門医2名に加え、管理栄養士のブースを併設して、生活習慣病一般を診療対象としている。

2) 入院診療体制と実績

入院患者は16階西病棟の10床を中心として、2チームで診療に当たっている。

H28年度 入院患者疾患内訳



「慢性腎臓病・慢性腎不全（HD/PD 含め）」の入院は、透析患者を含めた慢性腎臓病患者の教育入院や合併症治療の入院。心血管合併症の入院が多い。

「急性腎障害、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群」の入院では、腎生検検査入院も含む。